

患者さんへの臨床研究のお知らせ

自治医科大学附属さいたま医療センター 総合診療科では、下記の臨床研究を実施しております。

【研究課題名】

悪性腫瘍患者における脾臓容積と肺炎球菌感染症発症リスクに関する研究

【研究責任者】

自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床助教 栗原 維吹

【研究の対象となる方】

悪性腫瘍の診断を受けており、2008年1月1日から2020年9月30日の間に当院で胸部や腹部のCTを撮像された患者さんです。

悪性腫瘍とは、自身の細胞が制御不能となり異常な分裂と増殖を繰り返し、死に至らしめる病気の事です。制御不能となる細胞の違いにより分類され、体や臓器の表面に存在する細胞（上皮細胞）が制御不能となる「癌」、骨や脂肪・筋肉・血管など体の内側から支える細胞（間質細胞）が制御不能となる「肉腫」、赤血球や白血球などの血液の細胞をつくる骨髄細胞が制御不能となる「血液悪性腫瘍」などの種類があります。

【研究の目的・方法】

患者さんの脾臓容積、悪性腫瘍に関する臨床情報（悪性腫瘍の診断日や、悪性腫瘍の種類、病気の進行度）、肺炎球菌感染症を発症したかについての情報をカルテから収集し、脾臓容積と肺炎球菌感染症の発生の関連などを検討します。

脾臓とは左脇腹にある10cm大の臓器で、古くなった血球の処理や、体内に侵入した細菌に対する免疫に関する働きを担っています。胸部や腹部のCTを撮像した際に脾臓が映り込むため、その画像の脾臓の断面積をもとに脾臓の容積を計算します。

感染症とは病原体が体に侵入して増殖し様々な症状を引き起こす事をいいます。肺に侵入すれば肺炎、耳に侵入すれば中耳炎など、病原体が侵入する部位によって様々な種類があります。肺炎球菌感染症とは肺炎球菌という細菌が体に侵入することで起こります。

肺炎球菌はその名の通り肺炎の原因菌として最も多く、それ以外にも中耳炎や髄膜炎（脳や脊髄を包む髄液に細菌が侵入して増殖することで起こる感染症）などを引き起こします。

【研究に用いる試料・情報の種類】

生年月日、カルテに記載された臨床情報（性別、喫煙歴、悪性腫瘍の診断日、悪性腫瘍の種類、悪性腫瘍の進行度、CTの撮像日）、CT画像 等

【研究期間】

この研究の期間は、 年 月 日から2025年12月31日までです。

【本研究に関する問い合わせ】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

お問い合わせ先

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847

自治医科大学附属さいたま医療センター

TEL048-647-2111

研究担当者：総合診療科 （氏名）菅原 斉

苦情の窓口

自治医科大学附属さいたま医療センター
総務課 TEL048-648-5225